

■企画展

「生と死と」

会期 平成18年3月26日(日)～5月7日(日) 会場 特別展示室

はじめに

本展では、岩手県に内在する生死を巡る民俗慣行と、その背景に見える日本人の死生観の多様性について、文字・絵画・写真資料を中心に紹介します。あわせて、統計データの数値による客観的な「生」と「死」の歴史の変遷もたどります。

これにより、古くから地域に伝わる習俗を知り、また「死」をみつめ「生」と向き合うことで郷土理解を深め、さらに「今を生きる力」を見出す契機となれば幸いです。

また、生命倫理などの今日的な社会問題、阪神淡路や新潟中越の震災に代表されるような「生」を奪う自然の猛威なども、他人事ではなく個々の問題として認識できる機会にさせていただきたいと考えています。

■プロローグ 生の躍動と死の静寂

「誕生」と「死」。それは人の一生の対極にある点であり、誰もが通過する道筋にあります。

しかし、各地域に伝わる年中行事や、出産・葬儀など人の一生の節目となる儀礼、それにまつわる信仰から見えてくる日本人の死生観は、「誕生」と「死」を始点と終点とは捉えていません。「誕生」と「死」は、あくまで円形に創造された循環する人の一生の通過点に過ぎないのです。

それは、生まれくる当事者、そして死にゆく当事者の状況や心意の実際を知る術をもたない第三者の「思想」・「観念」の発露であることはいうまでもありません。

そして、その複雑な想いの果てにたどりつき具現化された形が「民間信仰」や「年中行事」、「儀礼」として今日もなお各地に伝承されているのです。

本章では、そうした「生の躍動」と「死の静寂」を象徴する岩手県内の事例について、主として写真を中心に紹介します。

また、「生死の境界」に位置する事象とし

て、平安・鎌倉期に描かれた「疾の草紙」に倣い16種の症例を書き留めた江戸時代の絵巻「新撰病草紙」(東北大学附属図書館医学分館蔵/写真展示)などを紹介します。この草紙には、現在では「死」に直結することのない症例も難病として数えられています。医療技術が未発達であった時代には、いかなる病も死と背中合わせのものとして意識されていたことを物語っているのでしょう。



参考 ぎょう虫が出た患者(「新撰病草紙」より)

I あの世へのいざない



鬼卒像と業秤(「岩泉町・洞岩寺 蔵」)

人は誰も生物学上の「死」を迎えます。しかし、前述のように人々の心意に根ざした民俗学の成果では「死」は決して「無」に帰するものでなく、人生の通過点に過ぎないのです。

そこで、本章では残された人々により創出された「死」を起点として始まる多様な世界観を紹介します。

ちなみに、古老たちは語ります。昔は悪いことをすると近所のお寺に連れていかれた。そして「地獄極楽図」の前に立たされ、

死ぬと閻魔様に裁かれ、生前の罪の重さ相応の報いを受ける。まして、人の「生命」を弄ぶ行為は多くの人々を悲しませるがために罪が重く、閻魔様も容赦しないだろうと怒られた。こうした子ども時代の経験を経て、我々は善悪の区別を学び社会性を身につけ、そして「生命」の尊さを知ったと…。

それゆえに、本章では自他の「生命」と、「死」を巡る人々の想いの深さを感じていただきたいと考えています。

【展示構成】①死の訪れ、②神仏の導きと裁きのとき、③死者の姿Ⅰ～死にゆく者の果たせぬ想い、④死者の姿Ⅱ～残された者の切なる願い、⑤供養のかたち

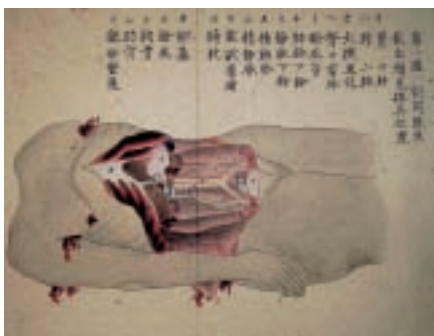
II 死と背中合わせの生

ときどき、マスメディア等の情報媒体により「出産」の現場を目にする機会がありますが、そのたびに母子ともに身体への負担が大きく、危険と背中合わせの営みであると痛感させられます。それゆえに、現実の問題として「誕生死」に直面し計り知れない悲しみと向き合って生きる方々の存在も少なくありません。

しかし、ひと昔前までは豊富な経験と卓越した呪術に基づいた「コナサセ」と呼ばれる人々による分娩が一般的に行われており、「出産」は現在よりはるかに「死」に近い行為でした。特に、広大な面積を有する岩手県の場合には医療施設が乏しく、僻地医療の改革が実行に移されるまで呪術に依拠する以外の選択肢がなかったのです。

そこで、本章では産科医療発展の歴史と、岩手における「出産」環境の今昔を紹介します。

【展示構成】①産科技術の発展、②都鄙の諸事情Ⅰ～東洋医学と民間療法～、③都鄙の諸事情Ⅱ～間引きと墮胎～、④母子保健の歩み



存真図腋（仙台市博物館蔵）



コナセ道具の一部(二戸市歴史民俗資料館蔵)



◀桃山人夜話
(早稲田大学図書館蔵)

Ⅲ 生と死のはざままで

「おばけ」（またの名を「妖怪」、「化物」、「もののけ」などともいう）とは何か？実在するのか？実在するとしたら、どんな顔かたちをしているのだろうか？どこに行けば遭えるのか？…どんなに考えても疑問ばかりが先に立ち、結論にたどりつくことができません。

そんな「超自然的な存在」であるおばけへ向けられた眼差し。その視点は科学的の発達に乏しいがゆえに説明不可能な事象が多かったと考えられる昔と、好奇心（恐いもの見たさ）ばかりが先行する今とでは異質なものであることはいまでもありません。しかし、関心の高さは今も昔も変わらないものであったと思われます。

そこで、本章では江戸時代に流行した各種妖怪絵本や、「百鬼夜行図」の源流と

目される伝・土佐光信画（京都・大徳寺真珠庵所蔵、室町時代、国指定）を忠実に模写した「百鬼夜行絵巻」（館蔵）などを紹介します。また、岩手で伝承される語りの中の主人公として代表的な「カッパ」や「天狗」、そして身近な存在であるキツネ、タヌキ、ネコの不思議な力にも着目します。

【展示構成】①おばけ大行進！、②カッパの住む里で、③天狗の住む里で、④キツネ・タヌキ・ネコ～身近な動物の不思議～

さいごに

本展は、桜が咲き乱れ、植物園の花木が芽吹き始める5月7日(日)まで開催しています。展覧会を通じて、そして自然の息吹を通じて、「生」を感じてみてはいかがでしょうか。（学芸員 川向富貴子）

企画展関連事業のお知らせ

いずれも当日受付で、事前申込の必要はありません。

【展示解説会】展示会場（要入館料）

- ① 3月26日(日) 午後2時～3時
- ② 4月29日(土・祝) 午後2時～3時
- ③ 5月1日(月) 午後2時～3時
- ④ 5月5日(金・祝) 午後2時～3時

【企画展講座】教室（無料）

- ① 4月16日(日) 午後1時30分～3時

「聖徳太子が描かれた十王図」

時田里志（当館主任専門学芸調査員）

- ② 4月23日(日) 午後1時30分～3時

「いわて“地獄”“極楽”紀行

～描かれた「あの世」の世界～

川向富貴子（当館学芸員）

- ③ 4月30日(日) 午後1時30分～3時

「古今東西 おばけ大行進!!」

川向富貴子（当館学芸員）

- ④ 5月3日(水・祝) 午後1時30分～

「死者の肖像～供養絵額から遺影写真へ～」

前川さおり氏（遠野市立博物館学芸員）



供養絵額（遠野市・善明寺所蔵）

その他

学芸員による展示解説をご希望の方は、来館予定日の10日前までに博物館宛てにご連絡ください。折り返し、担当者よりお電話いたします。ただし、10名様以上の団体利用に限ります。それ以外の方は上記の展示解説会をご利用ください。

なお、団体展示解説は受付順とさせていただきますので、ご希望にそえない場合もありますことをご了承ください。